

LGBTなど性的少数者に対する理解増進法が参院本会議で可決、成立した16日、岡山県ゆかりの当事者らは、性的少数者に配慮する条項が設けられた点を警戒。「むしろ理解を妨げる恐れがある」と疑問や憤りの声を上げた。(2面関連)

総社市出身のトランスジェンダーで、当事者らでつくる「トランスジェンダー・ジャパン」(東京)共同代表の浅沼智也さん(34)は「私たち少数者は日常的に偏見や差別にさらされ続けてきたの

## 「理解妨げる恐れ」

LGBT法成立

に、なぜいまさら多数者への配慮を求められるのか」と怒りをにじませた。

レズビアンで、性的少数者が自分らしく生きられる社会の実現を訴えるパレードを行う当事者団体「ももにじ岡山」共同代表の市川明美さん(58)は「岡山市南区芳泉にも「仮に多数者が『パレードを見たくない』と訴えれば、中止せざるを得ないような空気が生まれ

### 岡山ゆかりの当事者ら 疑問、憤りの声

ないか心配だ」と話した。

GID(性同一性障害)学会理事長の中塚幹也・岡山大学院教授(生殖医学)は、法制化に反対する保守派に配慮して何度も修正が加えられた点を懸念。「せめて、市民一人一人が『差別はあってはならない』という基本理念を素直に捉え、実行してほしい」と強調した。

(石井聡)